

科目名 基礎看護学技術Ⅰ		単位 1単位	開講時期 1年次前期
講師名		時間 30時間	実務経験 専任教員/看護師として臨床経験あり
授業概要 看護の対象者が安全・安楽にその人に合った療養生活を送ることは、看護師が適切に対象者の健康上の問題を明確にして介入を的確にできることが不可欠になる。従って、対象者の健康上の問題を明確にするための身体的・精神的・社会的側面についての情報の収集とアセスメントの具体的方法を習得する			
到達目標 1.看護の対象である人を、身体的・精神的・社会的側面を統合してアセスメントすることの意義について述べるができる 2.人の身体的側面の情報収集に必要なフィジカルイグザミネーションの技術が実施できる 3.人の精神的・社会的側面について必要な情報の収集方法が実施できる 4.上記目標1・2・3を統合して、対象者の健康上の問題についてアセスメント必要性が説明できる 5.ヘルスアセスメントを行う上での礼節・態度を示すことができ、倫理的な配慮ができる			
DPとの関連 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
◎	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
○	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
○	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】			
時間	授業内容	方法	備考
1	ガイダンス及びヘルスアセスメントの意義	講義	
2	全体の外観とフィジカルアセスメント(必要な技術とバイタルサイン)	講義、ポストテスト	
3		講義	
4	呼吸器系及び循環器系のフィジカルアセスメントの実際	講義、ポストテスト	
5		演習	
6	頭・頸部及び乳房と腋窩のフィジカルアセスメントの実際	講義、ポストテスト	
7		講義	
8	腹部及び直腸・肛門・生殖器のフィジカルアセスメントの実際	演習、ポストテスト	
9		講義	
10	脳・神経系及び筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際	講義	
11		講義、ポストテスト	
12		演習	
13		講義	
14	精神面・社会面のアセスメント	講義	
15		講義、ポストテスト	
	終了試験(実技試験・筆記試験)		
受講上の注意 各講義内容についての解剖生理・病態生理についてはそれぞれ事前に確認しておくこと 実技試験は各講義のポストテストにおいて実施するのでよく聞いて演習にも取り組んでおくこと ポストテストの際はその時間のどの項目をするよう指示されるかわからないので演習はきちんと参加すること			
評価方法 ポストテスト30点 実技試験40点 筆記試験30点			
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院			
参考文献 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア ナーシンググラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メディカ出版			

分野 専門分野			
授業科目名	単位	1 単位	開講時期
基礎看護技術Ⅱ			1年次後期
	時間	30 時間	
講師名	志方純子	実務経験	看護師として臨床で勤務
授業概要			
看護実践の安全性を保障し、感染予防の基本的姿勢が理解できる			
対象の健康レベルに応じた援助技術を習得する			
対象に応じた看護技術が安全安楽にできる			
到達目標			
1. 看護援助の安全性を保障するための具体的行動がわかる			
2. 感染防止対策における原理原則がわかり、正確な手技で実践できる			
3. 事例に応じた、日常生活の援助を安全安楽にできる			
DPとの関連 関連が深いもの◎、関連するもの○			
<input type="radio"/>	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
<input checked="" type="radio"/>	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
<input type="radio"/>	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
<input type="radio"/>	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
<input type="radio"/>	5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】			
時間	授業内容	方法	備考
	基礎看護技術		
1	患者の状況に応じた、安全安楽な生活援助技術とは	講義	
2	排泄を促す援助、排泄援助（床上、ポータブルトイレ）	演習 ポストテスト	
3	臥床患者のリネン交換、点滴ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	演習 ポストテスト	
4	移乗介助、体位交換、保持	演習 ポストテスト	
5	手浴、足浴（ベッド上、座位、拘縮のある患者）	演習 ポストテスト	
6	陰部の保清、オムツ交換	演習 ポストテスト	
7	清拭、整容	演習 ポストテスト	
8	洗髪	演習 ポストテスト	
9	口腔ケア	演習 ポストテスト	
10	事例に応じた看護援助	演習	
	感染安全		
11	感染安全の基本、感染経路別対策	講義	
12	器材の洗浄、消毒、滅菌、滅菌物の取り扱い	講義	
13	感染防止の技術（手指消毒、PPE着脱、滅菌物の取り扱い）	演習	
14	安全確保の技術	講義	
15	KYT演習	演習	
受講上の注意			
基礎看護技術Ⅱを習得できない場合は、基礎看護学実習を履修できない			
評価方法			
ポストテスト10点、筆記試験（感染安全）40点 技術評価50点			
演習中の技術確認、フィックリストを活用した自己評価と他者評価の提出			
使用するテキスト			
医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅰ〔2〕 Ⅱ〔3〕			
参考文献			